



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)

高岡ふしき病院

かたかご KA TAKA GO



二上山の大伴家持像

小児科 宮崎あゆみ

当院の北側、まさに庭のような近さに横たわる二上山。たった274mの標高ながら、多くの登山道が整備され、一年を通して散策に訪れる人が絶えない、地元民に親しまれている低山である。秋は紅葉。山頂の登り口にある大伴家持記念碑のモミジは、その激動の人生を象徴するかのように深紅に燃え上がる。

大伴家持は、養老二年(718年)に生まれた奈良時代の貴族、歌人である。29才で越中守として当地に赴任、自然風土の素晴らしさに感動し、5年間の在任中に223首もの歌を残した。「二上山の賦」の一節である以下の歌は、特に地元の皆さんに親しまれている。(一部記念碑説明文参照)

玉くしげ 二上山に鳴く鳥の 声の悲しき 時は来にけり

index

院長あいさつ	2
第30回院内研究発表会	
健康教室	3
院外活動あれこれ	4~5
BLS講習会に99%の参加率を達成!	
伏木中学校2年生が「14才の挑戦」	6
第10回富山マラソン	
新人紹介	7
編集後記	8

No.26

令和7年12月25日発行

第3回 高岡ふしき地域包括ケアネットワークの集い



院長 中辻 裕司

令和7年6月28日(土)、高岡市伏木コミュニティセンターにおいて「第3回 高岡ふしき地域包括ケアネットワークの集い」が開催されました。

『高岡ふしき地域包括ケアネットワーク』は、高岡北部地域において、地域包括ケアに関する情報を共有し、地域住民、医療・介護・福祉施設、行政の連携を深め、住民が地域

で安心して暮らせる地域包括ケアシステムの実現を目指しています。

以前は、地域包括ケアに関する活動が、個別に行われることが多い、情報も不十分で、参加する住民は少ない状況でした。そこで、当院の高嶋前院長が発起人となり、伏木・太田地域包括支援センター、高岡市福祉保健部、当院の3者が中心となり、伏木・古府・太田地域における地域包括ケア関連の活動をまとめ情報共有を図る「高岡ふしき地域包括ケア講座」が令和元年に設立されました。翌令和2年には「講座開設記念講演会」を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症により中止となりました。集会等の活動が制限されていましたが、令和5年によく第1回開設記念講演会が開催されました。そして、令和6年には守山・二上・能町地域包括支援センター圏域が加わり、名称を『高岡ふしき地域包括ケアネットワーク』と改称。より広い地域をカバーするネットワークとして新たに出発しました。

というわけで令和元年に立ち上げられたネットワークですが今回は令和5年、6年に続く第3回高岡ふしき地域包括ケアネットワーク総会および集いとなりました。

今回の集いでは、各地域での取り組みの紹介や活発な意見交換が行われたほか、特別講演として富山市まちなか診療所の渡辺一海先生をお招きし、「ウェルビーイング～地域のチカラ～」をテーマにご講演いただきました。

「ウェルビーイング」は、身体的・精神的健康に加え、社会的な繋がりも含めた幸福で持続可能な状態を意味します。講演では、地域社会における“4つの助（じょ）”、すなわち自助・互助・共助・公助について、中でも「互助」の重要性が強調されました。すなわち、住民同士が顔を合わせ、支え合う“通いの場”が、地域におけるウェルビーイングを高める鍵となるというメッセージであったと思います。高岡ふしき地域は特に高齢化が進み、独居の方も多いところに、能登震災の被害も重なり、人口減少がさらに進みそうな状況にあります。そのような地域環境の中でどのようにして住民同士の繋がりを維持し、互助が活性化される地域を作っていくかが一つの重要な課題であることが認識できました。

我々医療従事者は地域住民が安心できる医療を行うことがまず第一ですが、例えば地域住民の“通いの場”的のサポーターとしての出前健康セミナーなど未病・予防医学の啓蒙は現実的に行いややすい活動ではないかと思いました。地域包括医療に軸足を置く当院としては今後も地域のニーズに耳を傾けてゆくつもりです。

令和7年度 12月 高岡ふしき包括ケアネットワーク（伏木・古府・太田地区）予定一覧						
日	月	火	水	木	金	土
1 <small>伏木ふれあい健康教室（～）</small>	2 <small>おたっしゃ健康教室（太）</small>	3 <small>伏木ふれあい健康教室（～）</small>	4	5 <small>伏木ふれあい健康教室（コ）</small>	6	
6 <small>伏木ふれあい健康教室（吉）</small>	7 <small>伏木ふれあい健康教室（～）</small>	8 <small>伏木ふれあい健康教室（吉）</small>	9 <small>おたっしゃ健康教室（太）</small>	10 <small>伏木ふれあい健康教室（吉）</small>	11	12 <small>吉田新町はづら体操教室（吉）</small>
13 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>	14 <small>吉田新町おたっしゃ健康教室（吉）</small>	15 <small>吉田新町おたっしゃ健康教室（吉）</small>	16 <small>吉田新町はづら体操教室（吉）</small>	17 <small>吉田新町はづら体操教室（吉）</small>	18 <small>吉田新町はづら体操教室（吉）</small>	19 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>
20 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>	21 <small>吉田新町おたっしゃ健康教室（吉）</small>	22 <small>吉田新町おたっしゃ健康教室（吉）</small>	23 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>	24 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>	25 <small>Merry Christmas</small>	26 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>
27 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>	28 <small>吉田新町おたっしゃ健康教室（吉）</small>	29 <small>吉田新町おたっしゃ健康教室（吉）</small>	30 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>	31 <small>吉田新町はづらラジオ体操の会（吉）</small>		
伏木地区 (伏木コミュニティセンター)(伏木一公民館)						
古府地区 (古府立古府公民館)(古府一公民館)(吉田古府公民館)(吉田古府西公民館)(吉田新町公民館)(万葉町公民館)						
太田地区 (太田公民館)						

【協賛】 こふの希、ケアホームかたかごの郷、社会福祉法人伏木会 ふしき苑、社会福祉法人永寿会 雨晴苑、リゾートビラ雨晴、宇野内科医院、久賀内科クリニック、稻尾医院、医療法人社团明寿会/雨晴クリニック、真生会伏木クリニック、JCHO高岡ふしき病院

第30回院内研究発表会

5階病棟看護部 溝江 佳子



第30回という記念すべき研究発表は、全て患者様にとってどのような影響があるのかを考えた発表でした。

院内デイの活動が、日常生活動作と在宅復帰率の効果について機能的自立度評価法を用いて評価されました。社会的背景から在宅復帰率が高くはない現状となっていました。

病棟では、「動線のムダ」を縮小すべく「電子カルテの屋台化」による業務改善を行い、電子カルテによく使用する点滴に関する物品などを置き、動線を検証。ナースステーションから遠い病室のチームからは好評でした。更なる業務改善を期待したいと思います。

地域連携室からは、急性期病院への転院前訪問と情報共有へ「待つ連携室から出かける連携室」への取り組みは画期的でした。転院前に患者様や家族にもお逢いして安心して転院してもらうことで患者様や病院間の信頼に繋がります。紹介入院も前年度比110~124%と伸びています。

最後の特別講演、「肥満症の治療」では、たくさんの症例に驚きました。栄養指導、運動療法を6ヵ月間行う必要がありますが、興味のある方はご相談ください。

<発表演題>

1.院内性ケア活動によるADL および在宅復帰率への効果

リハビリテーション科 岡部 省吾

2.「電子カルテ屋台化」の取り組みについて

3階病棟看護部 高木 美穂

3.地域連携室による「転院前訪問」と「御用聞き」～病院を飛び出した連携～ 地域連携室 納山 陽子

《特別講演》 「肥満症の治療」

内科・糖尿病センター 鈴木 ひかり

健康教室



当院では月に1回、医師・コメディカル・保健師による健康教室を行っています。

毎月、各分野のエキスパートから健康

の維持・増進に役立つ情報を発信しており、参加は無料です。毎月15名程度の方に参加（予約不要）いただき、参加者の方から、「スライド見ながら説明が聞けて、すごくわかりやすく、理解できた」や「日頃の食事内容を見直し、今後気をつけたい」などのお言葉をいただいているあります。

1月は薬剤師による「褥瘡と薬のお話」、2月は管理栄養士による「病気を防ぐ～おいしい工夫～」と題し開催いたします。ご興味のある方はお気軽にご参加ください。

[2025年度 健康教室のご案内]

JCHO高岡ふしき病院の医師・コメディカルによる健康教室を以下の日程で開催します！各分野のエキスパートから健康の維持・増進に役立つ情報を発信します！無料です！お気軽にご参加ください！（先着15名程度です！当日参加も可能）

【場所・申込先（問合せ先）】

JCHO高岡ふしき病院 4F(402) / 0766-44-1181

【日程】

第1回 7月14日(月) 11:00~11:30

(テーマ) 心不全について

～あなたが心臓がたくなっていますか？～ 内科医師 和田 攻

第2回 8月26日(火) 11:00~11:30

(テーマ) 夏場のキトキトライフ

～健康づくりはいつ始めても遅くない～ 保健師

第3回 9月30日(火) 11:00~11:30

(テーマ) 糖尿病と合併症について 内科医師 鈴木 ひかり

第4回 10月28日(火) 11:00~11:30

(テーマ) あなたの骨は丈夫！？ 診療放射線技師

第5回 11月25日(火) 11:00~11:30

(テーマ) 臨床検査データから見た「心不全予防対策」 臨床検査技師

第6回 12月23日(火) 11:00~11:30 【注：リハビリ室で開催】

(テーマ) フレイル予防のための運動 理学療法士

第7回 1月27日(火) 11:00~11:30

(テーマ) 褥瘡と薬のお話 薬剤師

第8回 2月24日(火) 11:00~11:30

(テーマ) 病気を防ぐ～おいしい工夫～ 管理栄養士

2025.6.11 作成

院外活動

第25回富山県公的医療安全研究大会

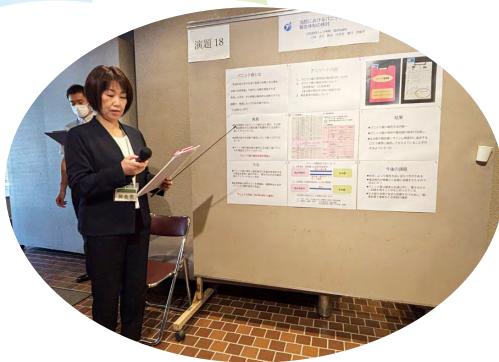
臨床検査科 林 浩子

6月21日、第25回富山県公的病院医療安全研究大会に参加し、「当院におけるパニック値の報告体制の検討」と題してポスター発表をさせていただきました。どの病院でもパニック値の報告はされています。ただパニック値設定や報告体制は各々の施設で異なっているので、たくさんのお施設の方に興味をもって聴いていただけました。

口演が10題、ポスター発表が13題と県内公的病院の医療安全の様々な取り組みを知ることができました。中でも黒部市民病院の「当院におけるパニック値運用の見直しについて」という口演は同じテーマだったので興味深く参考になることが多かったです。例えばパニック値は18項目設定してあるが電話連絡

は5項目のみとし、カルテ記載も臨床検査技師がするというごとでした。また医師がパニック値に対してどのように対応したかを検査技師も確認しているという内容でした。当院はカルテ確認を10月から導入し始めました。今回の参加は、当院のパニック値対応の課題もわかり、有意義なものになりました。

清水文彦総務係長の「震災時の課題から見た災害対応への取り組み」の演題も、たくさんの方々から関心が寄せられ、ポスターの前では活発な意見交換がなされました。



令和7年度富山県病児・病後児保育研究大会

看護部・小児科外来 本多 妙子

富山県と富山県民間保育連盟は、富山県小児科医会、富山県病児保育協議会との共催で、毎年「富山県病児・病後児保育研修会」を開催しています。今年度は9月28日（日）、富山県農協会館に約120名の保育士や看護師等を迎えて実施され、私も初めて参加しました。

まず、当院宮崎医師の感染症に関する講話を聞きました。小児科に来院された患者やその家族等から「風邪をひいたら抗生素を飲めば治る？」という声をよく聞きますが、講話の中で風邪は主にウイルス感染のため、その症状を緩和する対症療法を行うこと、溶連菌等の細菌感染症には抗生素質を使用することなどの話があり、とても分かりやすく、今後、来院された保護者の方への説明の際に活用ていきたいと思いました。



岩島看護師の実習風景



本多看護師と前澤保育士の
息ピッタリのプレゼン

また、講習では、当院の岩島感染管理認定看護師指導のもと、参加者全員で感染症対策であるマスクやエプロン等の個人用保護具の着脱を実際に行ったり、前澤保育士と私とでおひさまでの急変事例の実体験を発表し、その事例について全員でワークショップを行ったりしました。適切な観察ポイントや緊急時の対応など、実践的な内容が学べたことが印象的でした。最後に医療的ケア児の保育経験報告を聞き、保育現場での医療的ケア児をサポートできる輪がもっと広がればいいなと強く思いました。

今後は、この研修会で学んだことを生かし、小児科外来やおひさま子どもやその家族が安心して来院して来られる設備や環境づくりに努めたいと思います。

あれこれ

世界糖尿病デー関連イベントin イオンモール高岡

内科・糖尿病センター 鈴木 ひかり

去る11月15日土曜日にイオンモール高岡において世界糖尿病デー関連イベントである無料血糖測定会を今年も開催いたしました。

このイベントは先代の糖尿病センター長である小林正先生が発案、開始され今年で15年以上となります。糖尿病は合併症が進行するまで症状がない病気であり、診断には血液検査が必要です。しかし若い方や健診を受けていない方は血液検査を受ける機会がなく、見逃されてしまう危険があります。そこで若い方が沢山集まるイオンモールで血糖測定イベントを行えば糖尿病の見逃しを少しでも予防でき、また病気に関心を持ってもらえるのではという思いがありイベントを継続してきました。コロナ禍ではイベントを縮小せざるを得ない

時期もありましたが、徐々に趣旨に賛同して協力していただける病院が増え、昨年からは高岡市内の公的4病院（済生会高岡病院、高岡市民病院、厚生連高岡病院、当院）が全て参加してイベントを行っています。

イベントでは毎年120～150名程度の方が血糖測定を受けており、そのうち1～2名の方が新規糖尿病と診断されています。（血糖と同時にHbA1cを測定し、その場で無料の紹介状をお渡しします）血糖測定の他に血圧・体重測定、医師による健康相談、管理栄養士による栄養相談、理学療法士による運動相談も受けられます。またバルーンアートも提供しておりお子様に人気です。本年は122名の方に血糖測定を受けていただき、1名の新規糖尿病の方がいらっしゃいました。「健診で血糖値が少し高くて心配だったので、再検査をしたくて来てみた」とか「たまたま通りがかったらイベントをやっていたので来てみた」など来場される理由は様々ですが、あまり普段病院に来られないような方もふらりと立ち寄っていただけたようです。

来年以降も協力してこのイベントを継続していければと思っています。



BLS講習会に99%の参加率を達成！

救急委員会・医療安全対策室 長澤 千和

当院のBLS講習会が伏木消防署とのコラボとなり3年目となります。毎年職員全員参加を目指していますが、令和5年は70%、昨年は83%の参加率であり、特に医師の参加率が低いことが課題でした。今年こそ「目指せ100%」で、9月8日から3日間の講習の日を迎きました。

幸いなことに今年の病院はいつもと違う、なんといっても1月末に病院機能評価受審というミッションがあるのです。機能評価という御旗のもと、救急委員長の意気込みも違いました。その結果、院長を筆頭に医師が全員参加するという喜ばしい事態となり、そう

すると講習も盛り上がるというものです。

講習時の職員の様子は真剣で、普段見られない表情と大きな声できびきびとした動きでした。3年間の伏木消防署とのコラボの効果を見て取ることができ、医師、看護師もびっくりの胸骨圧迫をやってのける事務員も出現しました。リズム、深さともに完璧、体の使い方も秀逸で、院内急変時には立派な戦力になると確信でき、思わず満足の笑みがこぼれおちました。ちなみに今年の参加率は、

99%であり、参加できなかったのは2名だけでした。

また、9月30日には3階病棟・5階病棟で入院患者の急変シミュレーション訓練を実施しました。細かいシナリオなしで急変対応を実践し、訓練後に振り返りをする内容でした。振り返りから様々な反省点や、今後の課題も見出された意義のある訓練となりました。



事務員の華麗な連係プレー



院長も汗だくで大健闘



院内急変時もあわてないで！

伏木中学校2年生が「14歳の挑戦」 放射線科 原田 淳也



今年も9月に伏木中学校2年生の男子生徒2名が、「14歳の挑戦」で高岡ふしき病院に来てくれました。病院内の各部署をまわり、職種ごとの仕事内容の説明や職場体験を行いました。病院という職場の中では、医師、看護師だけではなく、薬やレントゲン写真や検査、リハビリや食事管理などたくさんの職種が患者さんと接し、多様な事務作業を行ってくれる事務系職員が下支えしてくれるおかげで、医療が成り立っている

ことを経験していただけたのではないかと思っています。

病院で働いている私たち職員にとっても、自らの仕事を見つめなおす良い機会になっております。富山県オリジナルの「14歳の挑戦」。子供たちの将来の道標の一つとして、永く続けてくれることを願っております。

第10回富山マラソン 「皆さんに元気を届けられる活動を目指して」

臨床検査科 田中 瑞夏

11月2日（日）、あいにくの曇天の中、第10回富山マラソンが開催されました。ここ数年、当院職員の有志で健康を目的としたランニング活動を行っており、富山マラソンを初めとしたランニングイベントにも参加しています。医療に携わる人として皆様に元気を届けられるようまずは、「自分が元気であること。」それが活動理由の一つではありますが、様々なイベントに参加する中で、私たちは、たくさんの方に活動を応援していただき元気をいただいています。これからも、いただいた元気を患者様や伏木の皆様にエネルギーとしてお届けできるように楽しく活動していきますので見かけた際には応援よろしくお願いします！皆様もぜひ朝日を浴びてお散歩やラジオ体操など心地よい運動から始めてみませんか♪



ジョギング部門に参加した
篠田医師と小竹看護師



院内最速ランナーは
和泉薬剤師



フルマラソンを完走した仲間達

なお、皆が着用しているのは、当院オリジナルTシャツです。お手頃価格で広く職員の皆さんに購入いただいて、協賛金とさせていただいている。この機会に一着いかがでしょうか？

新人・転任紹介

①出身地 ②趣味・特技等
③新人：この仕事を選んだ理由

転任者：抱負等



窪 千菜実 看護師

新人

- ①氷見市
- ②食べ歩き
- ③病気と闘う方の支えになりたいと思ったから。



上村 公俊 看護師

新人

- ①高岡市
- ②時短料理
- ③早くJCHOの一員となり、地域に奉仕します



速水 夏歩 看護師

新人

- ①射水市
- ②美味しいものを食べること
- ③人との関わりを大切にできる仕事だと思ったから。



嶋田 智佳 薬剤師

新人

- ①長野県
- ②スポーツ観戦
- ③1日でも早く貢献できるようがんばります



五十嵐博子 保健師

新人

- ①氷見市
- ②音楽鑑賞
- ③「一念通天」で頑張ります。お願いします。



坂口明日香 看護師

転任

- ①石川県 七尾市
- ②趣味：サウナ・美容・ジム
- ③急性期での経験を活かして頑張ります



地域連携室

医療社会事業専門員 江畠 美由紀

地域連携室は、急性期病院、診療所、地域包括支援センター、介護保険施設等と連携し、円滑な受診の調整や入院の受け入れを行う前方支援と、複雑な問題を整理しながら、患者さん・ご家族が安心して退院先を選択できるよう支援する後方支援を行っています。在宅には、複雑な問題を抱えて生活している方や独居の高齢者の方が増えており、地域連携室には、日々、患者サポート相談窓口や外来からも様々な困りごとが寄せられますが、社会保障制度や社会資源を活用し、多職種で協力しながら問題を解決しています。また、前方支援として、令和6年10月より、当院独自の取り組みとして、転院前訪問を開始しました。転院前の病院に地域連携室のスタッフが訪問することで、患者さん・ご家族に安心して頂き、退院支援を見据えた情報収集を行っています。また、連携機関との顔の見える関係づくりにも力を入れています。



編集後記

家で過ごすことが多く、気づけばスマホを触り続けて休日が終わってしまうことがよくあります。「このままでは良くない」と思い、本を読むことを始めてみたのですが、なかなか読めませんでした。文字は追えても内容が入ってこず、読むための集中力がないことに気づきました。その結果、一冊を読み終えるのに何日もかかってしまいました。私はつい「最初から完璧にやろう」としてしまう傾向があり、結局は詰まって続かないことが多いです。そんな中で、“選読”という、興味のあるところから読む方法を知りました（小説には向きませんが）。興味がある部分なら内容も入りやすく、今は訓練のように文字と向き合っています。また、スマホもいきなり断ち切るのは難しいので、まずは「起きてすぐスマホを見るのをやめ、その間にストレッチをする」ことから始めました。小さなことをひとつやってみるのは意外と難しくなく、これらの習慣は今も続けられています。（S）